

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日北小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

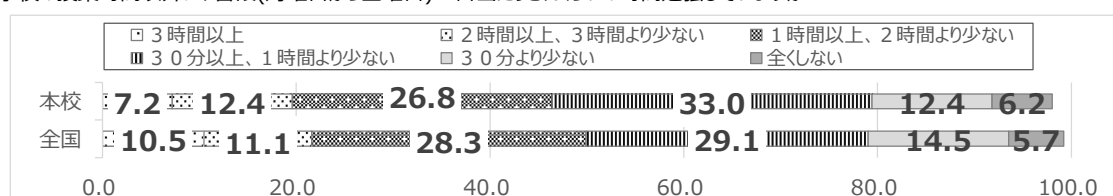
（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	79.3	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	86.6	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.8	91.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	86.6	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	85.5	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎ 学習課題に向き合い、学び方を考えながら学習に取り組もうとする姿が見られます。

◎ 学校生活や授業の中で、友達の意見を否定せず、互いのよさを認め合いながら課題を解決する姿が育っています。

● 学びを振り返りながら、自分に合った学び方を選択・調整し、学習をさらに自分ごととして進めていく力を高める必要があります。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	85.5	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	82.5	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	91.8	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.9	92.5

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.8	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	84.5	80.1

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 9割以上の児童が「学校が楽しい」と感じており、日常生活において、良好な人間関係を保ちながら強い幸福感をもっています。

◎ 人や社会の役に立ちたいという思いが高く、他者や社会への関心が育っています。

● 「自分の行動が誰かの役に立った」と実感できる体験を増やし、自己有用感や自己肯定感の維持向上につなげることが大切です。

調査結果を受けて

【学校では】

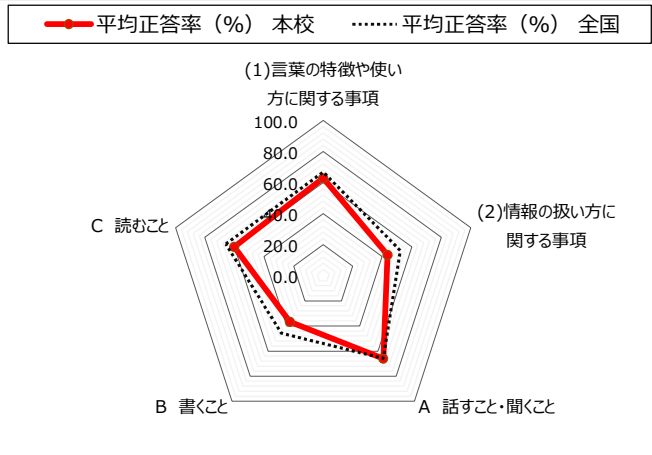
- 互いの人権が尊重される「環境づくり」「人間関係づくり」「学習活動づくり」を3つの柱とし教育活動を進めています。今後も、対話活動を重視し、子どもが安心して自分の考えを表現し、互いの考えを尊重しながら学び合える授業づくりを進めます。
- 子どもの主体性を育むため、学習課題の提示を工夫し、自分に合う学習方法や学習ペースを選択できるようにします。また、学習を振り返る機会を充実させ、自己の学びを調整する力を育みます。

【ご家庭では】

- お子さんが結果を出せずに困っているときは、「○○しなさい。」と促す前に、「どうすればいい？」「あなたは どうしたい？」と伴奏の姿勢で関わるのが大切です。また、よい結果に目を向けるだけでなく、プロセスや過程にしっかり目を向けて、お子さんのよさや努力を認め伝えましょう。
- 「北っ子がんばろう週間」では、お子さんに合っためあてを設定し取り組んでください。特に、スマートフォン・テレビ・ゲームとの上手なつき合い方や時間の管理についてお子さんと再確認し、よりよい生活習慣を育むようご支援ください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	62.9	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	43.5	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	65.9	65.8
	B 書くこと	36.6	45.7
	C 読むこと	60.2	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	57.6	61.9
短答式	58.1	62.6
記述式	47.8	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 音声言語を使って表現したり、音声言語を通して理解したりする力は概ね身に付いています。

● 「A 話すこと・聞くこと」以外の4項目すべてで全国平均を下回っており、特に「書くこと (-9.1)」「情報の扱い方に
関する事項」(-8.8)も含め、文字言語 (読み書き) や知識の定着・活用に課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	87.1	80.0
1二 (2)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	66.7	63.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	29.0	45.2
2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	22.6	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

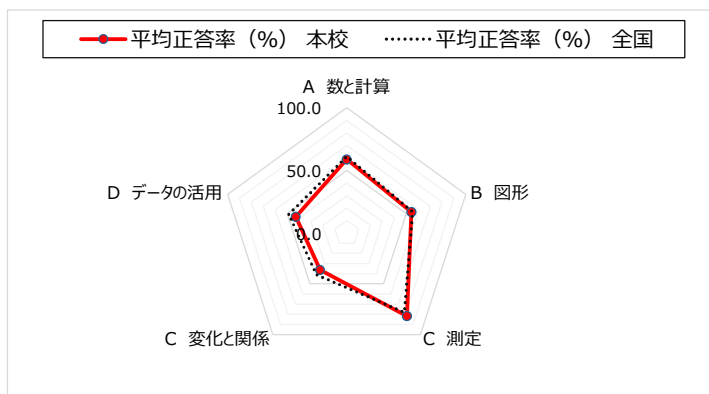
- 短文で書く活動を日常化し、書いて表現する力を養います。また、根拠を明らかにして自分の考えを伝える活動を充実させます。
- 「1年生に向けて学校の紹介パンフレットを作る」など、相手や目的を明確にした学習課題を設定し、日常生活につながる言語活動を充実させます。
- 漢字や言葉の学習、音読学習を繰り返し行い、基礎・基本の徹底を図ります。

【ご家庭では】

- お子さんの話を最後まで聞き、「どうしてそう思ったの?」と考えを引き出す対話を大切にしてください。「～だから」という理由を言葉にする習慣が、作文の「根拠を書く力」に直結します。
- ニュースや日常の情報に触れ、意見を交わす機会をつくってください。「情報の扱い方」を育てるためには、世の中の出来事や身の回りのデータに関心をもつことが第一歩です。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	58.9	61.1
B 図形	54.3	55.3
C 測定	81.7	78.1
C 変化と関係	36.2	41.1
D データの活用	42.7	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	53.8	56.0
短答式	58.7	59.7
記述式	40.5	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎単位の理解や、長さ・面積・体積などの量的な感覚、測定の仕組みが身に付いています。

●分数という数の大きさを視覚的・概念的に捉える力に課題が見られます。また、「なぜそうなるのか」を言葉や数を使いながら論理的に書いて説明する力が不足しており、生活場面を想起させながら実感を伴った理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	89.2	72.7
2 (1)	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	76.3	66.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (4)	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	58.1	68.1
3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	34.4	44.0

調査結果を受けて

【学校では】

○数の大きさや量の大きさについて、日常生活と関連付けながら実感を伴った理解ができるよう授業の改善を進めます。

○式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。また、自分の考えを、数や言葉を使って論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

○生活場面で算数を使う機会をつくってください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

○お子さんが分からなくて困っているときは、すぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えたり調べたりする時間を大切にしてください。